



53号 2011.11.20

特集

第35回アイメイト・デー

地方開催第1弾『歩み展in上尾』開催します！

TOPICS

- 後援会活動報告＜山梨県動物愛護デー・江東区民まつり＞
- お台場「ママコレ」でコンタクトレンズのシードとコラボ
- 同窓会レク アイメイトのお墓 慈恵院での法要

後援会からのお知らせ

- これまでの行事・活動&これからの行事・活動
- アイメイトチャリティーグッズ
人気ベスト3のアイメイトグッズをご紹介します！
「2012 年アイメイトサポートカレンダー」完成！
- アイメイト募金芳名録
- 役員会議事抄録
- 会員のページ
メールアドレス@を変更された方へ



アイメイト使用者 41 名を含む 200 名以上が参加したアイメイトデー

協会だより

- アイメイト卒業生人数
- アイメイト募金実績報告
- アイメイト・デーを終えてのメッセージ

連載記事

- アイメイト協会スタッフアンケート
- 後援委員なら知っておきたい
～使用者をトイレに案内するとき～
- リレー自己紹介【後援会】(一條菊義さん)
(糸賀穂波さん)
- 同窓会自己紹介リレー
「学校の中のアイメイト」(生井良一さん)

好きな本
または映画



2011年10月16日(日)

第35回アイメイト・デー

2011年10月16日(日)、第35回アイメイト・デーが都市センターホテル(東京都千代田区)で開催されました。総来場者数は約250名。うちアイメイト使用者は41組が集まりました。



▲塩屋隆男理事長の挨拶、近況報告。



▲麹町駅から会場まで誘導サポート。会場ではアイメイトグッズを販売。



▲今年で3回目となる「都市センターホテル」。受付業務も、後援会でサポート。



▲協会をサポートする㈱シードの浦壁社長▲

アイメイトと一緒にイタリア旅行

◎アイメイト使用者 佐藤由紀子さんの話

佐藤由紀子さんは、現在、3頭目のアイメイトと生活。イタリア語を勉強して、アイメイトと一緒にイタリアへ旅行したことなどを語りました。

佐藤由紀子さん：私は、趣味でイタリア語を勉強しています。15年ほど前、アイメイトを日本に置いて、パックスアーでイタリアに行きました。最初のアイメイトと歩き始めてちょうどそのころ10年が過ぎた頃で、初めてアイメイトを家に留守番させて出掛けました。イタリアをとて気に入り、楽しい旅だったんですが、アイメイトを家に置いて行ったことだけが心残りでした。

それから1年くらい経ったときでしょうか。使用者仲間の1さんとこんな話をしました。そしたら、彼女はアイメイトと二人（一人と一頭）だけで何度もスペインに旅行している。私から見ると強者としか言いようのない人ですが、私が、「アイメイトと一緒にイタリアに行きたかったなあ」と言ったら、彼女は私に「じゃあ、由紀子さん、イタリア語を勉強すればいいのよ。自分で言葉がしゃべれれば個人旅行ができて、そうすればアイメイトだって連れて行けるよ」と、こともなげに言いました。

それで「言葉がしゃべれればツアーじゃなくて個人で行けて、アイメイトも一緒に行けるんだ。」そう思ったのが、イタリア語を勉強し始めたきっかけです。

これまでにアイメイトと一緒に3回イタリアを訪れました。でも、一人と一頭だったらカッコいいんですけど、弱視の夫も一緒に二人と一頭の旅です。先月、5年ぶり、久しぶりに2週間ほど、ローマとベネツィアとフィレンツェと、大きい町を滞在しながら、イタリア中部の小さな町をいくつかと、それから思い切って、足を伸ばしてクロアチアとの国境の町まで、行ってきました。もちろん、今ここにいるアイメイトも一緒です。

今のアイメイトにとっては、初めての海外でした。帰ってきてから、友達何人もから「海外でアイメイトはどうだった？」と聞かれました。皆さんの期待を裏切るかもしれないんですが、「いつもとおんなじ」です。外国にいたりとか、車がいつもと反対で右側通行だとか、たぶんわかってないんだかなんとか、なにも変わりはありませんでした。

約10年イタリア語を勉強していて、イタリアの盲導犬使用者が運営しているメーリングリストを通じて、何人かのイタリアの盲導犬使用者とも友達になりました。今回もご自宅に招いてくれた、マリーナとアレッサンドロは、使用者同士のカップルです。マリーナは、もう日本ではあま



り見られないシェパードの盲導犬を使っています。そして、マリーナを通じて知り合ったロベルトは、奥様が日本の方です。

国や文化や言葉が違ってもそれぞれのパートナーに寄せる思いや、ときに入店拒否など、社会との軋轢を抱える姿などをお互い話をしていると、イタリアを遠い観光地というのではなくて、身近に感じる共感できる部分がたくさんあります。

最後に、私は茨城県日立市という関東に北の端に住んでいて、近くにイタリア語を勉強する場所が無いんです。いま、不定期なんですが、このすぐ近くの「青山一丁目」に時々、勉強に来ています。あの3月11日の地震の時は、授業に出るために、上野駅に着いたときでした。そしてそのまま帰宅困難者になってしまいました。

そのときもアイメイトがそばにいてくれて、大混雑の中を本当にいつもと同じように落ち着いて行動してくれたので、なぜか不思議と不安というものは感じませんでした。

こうやって好きなことを勉強できるのも、アイメイトが居てくれるからこそだと思います。普段、お礼を言ったことないんですけど、いま足元にいる子に言います。「ありがとうございます！」

我が家の今の夢は、いつかイタリアにアイメイトと一緒に長期、それも90日間くらい、家具付きアパートでも借りて滞在してみたいというものです。その時はもちろん、アイメイトも一緒です。この子は7歳なので、ちょっと無理かもしれませんが、次のあたりのアイメイトとその夢を果たせればうれしいかなと思います。

飼育奉仕の魅力に、どっぷりと

◎飼育奉仕 衣袋一枝さんの話

衣袋さんは、これまでに9頭の子犬を育てました。飼育奉仕の楽しさを、たくさんの思い出とともに語ってくれました。

衣袋一枝さん：私が飼育奉仕を始めたのは14年くらい前に初めて飼ったシェットランド・シープドッグを亡くしたからです。私には3人の子供がいますが、そのとき小学生だった下の子がまた犬を飼いたいと言い出しました。上の子達は、飼いたくないと言いました。そんなとき、ムツゴロウ（畑正憲）さんの本の中で、ペットを亡くした人はペットロスにならないように、またペットを飼うことを勧めている文を見つけました。そして、日本とアメリカのパピーウォーカー、飼育奉仕の特集をテレビで見たことを思いだし、飼育奉仕をすることにしました。

初めて預かった子はイエローの男の子でした。デッキに大きなタオルを敷くと、その上で外気浴をしながら寝るのが好きな子でした。2頭目は初めての黒ラブ。初めての女の子でした。近所の人に、「女の子は大人しいから楽よ」と言われましたが、とんでもない。叱ると逆切れをしたみたいに暴走をして、甘噛みをしたり。気づくと子供たちはそれぞれの部屋に避難してしまい、誰もいないということがよくありました。3頭目はイエローの女の子でした。掃除機をかけると、自分で器用に網戸を開け、デッキで外気浴をしていました。テーブルの上にすぐ乗る子、テーブルの下に入って、狭い空間なのに、椅子の上で丸まって寝る子。椅子の上に座って人間のようにテレビを見る子。色んな子がいて、犬を育てるのはとても楽しい体験です。

愛嬌があって、やさしい子たちなので、散歩中いろんな



人が声を掛け、撫でてくれます。中には犬が苦手だと言いながら、声を掛けてくれる人がいます。毎朝挨拶をしていると、「触っても大丈夫かな」と言うので、「犬苦手でしたよね、顔を押さえておきますね。どうぞ」と言いますと、犬を撫でてとてもうれしそうな顔をします。そのうち顔を押さえなくても撫でられるようになります。

散歩で会う人達に、「みんな、カタカナの難しい名前だからなあ。やっと覚えたかと思うといなくなっちゃうし。寂しくないのかい」とよく聞かれます。「もちろん寂しいですよ。でも、盲導犬になるために生まれてきた子達なので、嫁に出したと思うようにしています」と答えます。飼育奉仕の魅力にどっぷりとはまってしまいました。

家族も、「犬がいないと寂しいね。次の子はいつ来るの」と毎回聞いてきます。子供たちも多感な時期を、犬を撫でたり、抱きしめたりして犬に癒されて過ごしました。新しい犬を受け取ると、一年前後という限られた時間しかいられないので、この子と過ごす時間を大切にしようと、毎回思っています。

初めてのお産で、12頭の子犬が誕生

◎繁殖奉仕 佐野智子さんの話

佐野さんは、2頭の飼育奉仕をした後、繁殖奉仕を始めました。今年2月に初めての出産を経験。出産時の様子を話してくれました。

佐野智子さん：繁殖奉仕の前は飼育奉仕をしていました。我が家で飼育した2頭目の子が繁殖に選ばれたと報告がありそれから家族会議を何度も開き、繁殖奉仕にチェンジすることに決めました。決め手は四人の子供たちの「母犬のお世話から子犬のお世話を協力しあい、未来のアイメイトの誕生を見守りたい」という言葉でした。

子供たちの通う学校や幼稚園、ご近所には、アイメイ



トのことをはじめ、飼育していた子が戻ってきて繁殖をするということを話していたので、たくさんの方が子犬の誕生を待ちわびてくれていました。

今年の2月にその日を迎えました。その日は朝から食事でも水もとらず、息づかいも荒く、落ち着かない様子でした。産室として用意した場所から出ようとせず、私が近づくと、「抱っこして」というようにすがってきました。午前保育だった娘をお迎えして、昼食を用意しようとしていたら、様子がおかしく、近寄ってみると、聞いたことのないか細い声が聞こえました。おならかなあ、それとも、もうじき出てくる子犬の声？と思っていたら、「おかあさん、お尻が黒いよ！」と娘の叫び声。見てみると、子犬の頭が出ていて、みみい鳴いていました。もう私はパニックになりそうでしたが、私が出産するときに助産師さんがパニックしていたら、出したいものも出せないと思い、安心して出産できるように、がんばって平静を装いました。

でも、準備をする手ががたがた震えました。それより、体の中からふるえていたのを今でも覚えています。どうかなのと思いましたが、仕事中の主人に電話したら、一時帰宅してくれることになりました。学校にも連絡してみましたら、先生方が貴重な体験ですとあって、子供たちの早退を快く認めてくれました。主人が子供たちを迎えに行ったら、クラスの子供たちや先生もとても興奮していたようで、がんばれーと声援を送ってくれていたそうです。

周りの応援もあり、出産は次々とだったり、何時間か空いたりして、なんと、12頭の子犬がみんな無事に元気に誕生しました。出産途中に、人間の食事の支度や、洗濯物を取り込んだり、スイミングの送迎など、バタバタで、感動というより嵐のような7時間でした。

子供たちが寝た頃に、やっと落ち着くことが出来ました。そしたら、目の前には12頭の子犬がみみい鳴きながら、むにゅむにゅ動いていて、母犬が献身的におっぱいをあげたり、おしっこやうんちをなめてあげたりして、そこで初めて感動がこみ上げました。

子犬との2ヶ月間の生活はあっという間でした。毎日子犬を見るお客さんが来て、本当ににぎやかでした。子犬の別れの日が近づくと、子供の友達、私の友人などがみんな遊びに来て、子犬を抱き、「次のおうちで可愛がってもらうんだよ」「絶対アイメイトになってね」と言葉をかけて

くれました。こういう形で、アイメイトの輪を広げていくことが出来るんだと感じました。これからもこんな素敵な経験を積み重ねていけるのだと思うと、幸せです。感謝の気持ちで一杯です。

出産のときの話は本当にいろいろあって、5分以内ではとても収めることができないくらい。出産当日の話をもう一つだけ。

協会の古性先生には注意されたんですけど、妊娠中に獣医さんの方で、面白半分に、エコー写真をとってもらったんですけど、その時、何回数えても11頭だったんです。で、産まれる前日にも11頭って言われていたので、家族みんなで11頭だと思い、カラーのひももいろんなものも11頭分だけしか用意していなかったんです。で、最後11頭がやっと産まれて、みんなで出産途中のデジカメ写真をプリントアウトしたり、あとお茶を飲んだりして、ほっとして、ホントに私はほっとして力が抜けていたんです。

そしたらちょうどまた娘が、「おかあさん来て！」と叫ぶので、「もうちょっとおかあさん休みたいから、いい加減にして」と言っていましたら、「そうじゃない、ホントにたいへんだから来て来て」と叫ぶので、行ってみましたら、まだ羊膜に包まれて、子犬がぐったりと転がっていて、母犬はなんと、つかれてしまっていたのか、寝てしまっていたのです。

で、自分で産んだことにも気づいていなかったみたいで、寝ていたんです。その時羊膜に包まれている子犬を見て、ホントにパニックになって、あわてて羊膜を破り、母犬をたたき起こし、それから顔に近づけたら、お母さん犬がその子犬の顔をべろべろとなめたんで、そしたら、けほけほっていう咳と、あとちょっとお水が出て、そこからみみい、っていう鳴き声がして、元気に無事に、2カ月間我が家で成長し、今は飼育奉仕の家に行っていると思います。

そんなエピソードが、ほかにもたくさんあるんですけど、時間もありますので、ここで終わりにさせていただきたいと思います。



塩屋賢一から受け継いだもの

◎協会職員 鈴木裕司さんの話

ベテラン歩行指導員の鈴木さんが、「塩屋賢一から受け継いだもの」として、訓練、視覚障害者、協会をサポートしてくれる方々について話しました。

鈴木裕司さん：今日は、塩屋賢一から受け継いだものということで、皆さんに少しお話をさせていただきます。

私がアイメイト協会の職員になったのは、1985 年、昭和 60 年。犬舎には約 40 頭の犬がいましたが半分はシェパードだったという時代です。その頃時代はバブル。みんなが浮かれていた時代でしたが、私は住み込みで、自由な時間が無く、休みも月に一日二日あるかないか。給料も、金額はお小遣いという感じでしたし、なんでこんなところで働いているんだろうと後悔しながら、友達などをうらやんでいたとき、塩屋賢一がこんなことを言ったんです。

「この仕事は金にはならない。金が欲しいんだったら違う仕事のほうがいい。けどな、金では味わえないものがこの仕事にはある。たとえば、やりがいとか。な。」

妙に納得してしまい、辞めずに今まで続けています。もう 25 年以上になります。

このキャリアの中で、塩屋賢一から受け継いだものをこれからアイメイト職員に引き継いでもらえるよう、毎日頑張っています。その中で今日は 3 点ほど、みなさんにお話しさせていただきます。

まず、訓練のこと。色々なことを教えてもらいました。その中でいつも考えていなければならないのが、使用者の人の役に立つ。実際に使える犬を訓練するということです。一つの例を挙げるとコーナーの教え方。皆さんはどうやってアイメイトにコーナーを教えていると思いますか。多くの人はコーナーで座らせることを繰り返して、止まるようにさせるやり方を考えると思います。ですが、初めての場所でも犬がわかって止まるのか。疑問や不安が残ります。初めての場所でもコーナーで止まるためには、それがどういうものか、その概念を犬に教えなければならない。コーナーの概念というのは、道の分かれている場所ということです。

最初、外を歩くと、分かれ道でも犬は気にせずどんどん歩いていきます。しかし、訓練を進めるうちに、道の分かれている場所へ来ると、今度はどちらへ行くの？と犬が聞くように、見上げて止まります。それは、コーナーの概念が理解出来たということです。たとえ初めての道であって



も、コーナーを教えるようになる。初めての場所でも正確に仕事出来るように教えることが、実際に使える訓練なんだと教わりました。

塩屋賢一と訓練の話をするとき、いつも感じていたのは、あの犬は教えるのに苦労した、難しかったなど、いろいろな話を聞きましたが、あの犬は嫌いだったという言葉は聞いたことが無かったことです。塩屋は長い時間かけて教えるときは相手を嫌いになれば話を聞いてくれない。まず、相手を好きにならなければいけない。」ということをお教えたんだと思います。

次に、視覚障害者のこと。私たち歩行指導員は、犬に関しては知識もあるし扱い方も上手だと思っていますが、じつは、視覚障害者の方にも私達より犬の扱いがうまい人はたくさんいるということ。それに気づき、いろいろな人から色々なことを学べるよう、いつも謙虚でいるよう注意を受けました。

他にも能力のある人はたくさんいます。指導中に先生と呼ばれることもたくさんありますが、そこで勘違いをしてはいけません。謙虚な気持ちを忘れてはいけないと教わりました。

私個人の視覚障害者の方々のイメージは、明るくてよく話すというイメージです。これは、アイメイト使用者のイメージです。それはやりたい気持ちがあれば出来るという気持ちを持っているからだと思います。

ある人が歩行指導卒業の時に言った言葉が今も忘れられません。「私は目が不自由なのではなく、不便だけです。なぜなら晴眼者に見えなくて、私には見えるものがあるからです。」とおっしゃいました。思い返すたびに、深い意味に、色々考えさせられます。いつも使用者や生徒の

方達から教わることがたくさんあります。

最後に、協力して下さる方のこと。飼育奉仕の話をする時の塩屋賢一の顔を思い出します。塩屋が盲導犬事業を始めたとき、子犬に愛を教える重要性和難しさがありました。家族の一員として愛を教えるのが一番いいわけですが、塩屋家だけでは限度があります。そういったときボランティアとして手を挙げてくれた方達がいました。 いまでは多くの方達が協力して下さるようになりました。飼育奉仕の方達は、飼育にかかる費用をいとわず、一年後、協会に戻った後は見守るだけで、決して表には出ません。

繁殖ボランティアの方達も大変だと思います。リタイア犬を引き取ってくださる方達も、老犬介護はたいへんなことだと想像します。

その他にも、使用者の社会参加のためにいろいろな形で協力してくださっている方がたくさんいらっしゃいます。みなさん、やってあげているんだと考えずに、自分達も楽しんでやっているんですよと笑顔で言うてくださる方ばかりです。

「これが本物のボランティアの形なんだ」と、塩屋はい

つも言っていました。その時の塩屋賢一の顔は、何と表現していいかわかりませんが、いい顔をするわけです。

「一生懸命やっていれば、助けてくれる人が必ずいる。その人達に感謝すること。この仕事は、自分だけでできる仕事ではない。いつもたくさんの人に支えられて、やらせてもらっているんだということを忘れてはいけない。」

そんな塩屋の思いをこれからも若い指導員に伝えることが、私の役目だと思っています。それが、言葉だけでなく、思いが受け継がれていくように。



【開催概要】

日 時	2011 年 10 月 16 日 (日) 13:00 開会 (12:00 受付開始・15:50 閉会)
会 場	都市センターホテル 5Fオリオンの間 (東京都千代田区平河町 2-4-1)
来賓・支援企業挨拶	・衆議院議員 吉田公一 (よしだ こういち) さん ・都議会議員 中谷ゆうじ (なかたに ゆうじ) さん ・東京都福祉保健局障害者施策推進部自立生活支援課長 藤井麻理子さん ・練馬区健康福祉事業本部 福祉部障害者サービス調整担当課 山崎直子さん ・株式会社シード代表取締役社長 浦壁昌廣 (うらかべ まさひろ) さん
ゲスト スピーカー	・アイメイト使用者 佐藤由紀子 (さとう ゆきこ) さん ・飼育奉仕者 衣袋一枝 (いぶくろ かずえ) さん ・繁殖奉仕者 佐野智子 (さの とみこ) さん ・後援会 平井三敬 (ひらい みつのり) さん ・協会職員 鈴木裕司 (すずき ひろし) さん
主な内容	・開会の辞 ・来賓挨拶 ・アイメイト協会理事長挨拶、近況報告等 ・参加アイメイト使用者による自己紹介 ・アイメイトを語る (使用者、各奉仕者、後援会員、協会職員) ・アトラクション/落語 三遊亭若圓歌 (さんゆうていわかえんか) 師匠 ・スピードくじ ・閉会の辞
後援会員	37 名 (誘導、販売、受付、会計など)
集合時間	誘導スタッフは、11:00 にホテルに集合。